



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 466号

2013. 10. 30
毎月1回発行

発行責任者
岸田 義典

目次

2013

9月号

- アルゼンチン農業最前線 2
中央農業総合研究センター
作業技術研究領域 長坂善禎氏
- アグリテクニカ 2013 イノベーション受賞機... 8
- 国別輸出入 (2013年7月) 10
- EVENTS CALENDER 15

アルゼンチン農業最前線

中央農業総合研究センター
作業技術研究領域 長坂善禎氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 466 回海外農機事情報告会を平成 25 年 9 月 27 日(金)に開催した。講師は、農研機構中央農業総合センターの長坂善禎氏。長坂氏は、アルゼンチンで開催された第 12 回精密農業国際シンポジウムに参加。その前後の視察の様子と併せ、「アルゼンチン農業最前線」と題して、映像と共に報告した。

要旨は以下の通りである。

中央農研の長坂と申します。農研機構に約 20 年勤め、農業機械の自動化・省略化の研究をしています。今回、情報利用研究領域の木浦卓治氏と共に、7 月 16～26 日の期間出張し、「第 12 回精密農業国際シンポジウム」に参加してきました。アルゼンチンのコルドバ州「輸出振興機構 (ProCordoba)」が招聘もとなり、アルゼンチンの研究者との意見交換をし、日亜の協力関係、JICA のプロジェクトと結びつくような案件がないかを探ってきました。

現地では、ほぼ地球の反対側の日本から来たということでインタビューをかなり受けました。JICA の働きと研究所の紹介もしてきました。アルゼンチンは本当に遠い。片道、搭乗時間が 25 時間 12 分、待ち時間 14 時間 28 分、所要時間が 39 時間 40 分でした。

アルゼンチン農業の概要

アルゼンチンは、国土面積 2 億 7,804 万ヘクタール、日本の約 7 倍です。うち農用地が 1 億 3,285 万ヘクタール、耕地面積は 3,300 万ヘクタールで、やはり日本の 7、8 倍。米国、ブラジルに次ぐ穀物の主要輸出国です。大豆粒の輸出では世界 3 位 (1 位米国、2 位ブラジル)、大豆ミールおよび大豆油では世界第 1 位、トウモロコシの輸出では米国に次いで第 2 位、小麦に関しては、世界第 5 位の輸出国です。バイオディーゼルでは世界第 4 位の生産国で、最大の輸出国です。

ただし、アルゼンチンでは、輸出に税金がかかります。大豆は輸出するのに 35%の関税がかかりますが、それでも国際競争力があります。大豆粒は 35%で一番関税が高く、ミールやカス、油になる

と若干安くなるようです。輸出に税金をかけている理由は、どんどん輸出されてしまうと、国内で食べられない人が出てきてしまう。牛肉でも小麦でも、食物に関しては輸出の際に税金をかけることになっているようです。

アルゼンチンの 2012、13 年の穀物収穫量は、史上最高の 1 億 504 万トンでした。うち大豆が 4,940 万トン、トウモロコシ 3,210 万トン、小麦 850 万トン、ひまわり 310 万トンです。穀物・油糧作物が 2012 年の総輸出額の 36.9%を占めました。うち、大豆が 22.3%を占め、換金作物としては非常にねらい目です。農産物がなかったら、アルゼンチンは稼げないので、INTA の方も非常に頑張っています。

現地の人の話によると、2001 年に経済破綻して借金したお金をアルゼンチンは返したつもりでいるのに、先進諸国では返してもしらっていないという意識のようで、今でも投資を控えているとのこと。そういう状況下で中国がかなりの投資をはじめているとも聞いています。アルゼンチンの列車はほとんどが貨物で、週に 2 回程度しか走っていないのですが、

図1 アルゼンチン コルドバ州

